

読書活動だより.68

編集・発行 静岡県読書推進運動協議会

静岡市駿河区谷田53-1
静岡県立中央図書館内
TEL 054-262-1246



乱読

静岡県読書推進運動協議会 理事
一般社団法人国際女性教育振興会 静岡県支部長
林 のぶ

私の乱読は、中学1年の夏から始まりました。古い記憶がはっきりしているのは、忘れられない出来事があったからです。陸上競技部の夏季練習が終了した翌日から海水浴(当時の袖師海水浴場)に通いました。朝の洗顔を済ませて、鏡に映る顔を見て、愕然としました。赤黒く日焼けした顔の真ん中だけ白くなっていました。鼻の頭の皮が剥けてしまったのです。その日以降、外出はまもなく、私を救ったのは年の離れた姉兄の本棚でした。まず、太閤記全巻を一気に読みあげ、次に手にしたのは明治・大正文学全集でした。内容を余り覚えていないのは、かなり難解だったからではないかと思えます。

中学3年になって、国語担任のM先生から有島武郎の「生まれ出づる悩み」を読むように薦められ、その後、「或る女」「一房の葡萄」などの有島の作品を追いました。中学生の私には難解な部分も多くありました。この頃、本好きな友人から「○○や○○の本を読んだよ」と次々に書名を紹介され、「雁」「高瀬舟」「こころ」、若山牧水、石川啄木、万葉秀歌などの詩歌まで手当たり次第読みました。

これらのほとんどが岩波の文庫本で、今でもスライドの本棚の隅に茶色になって残っています。

高校時代は、外国文学に^{かぶ}気触れ、パール・バックの「大地」、ショーロホフの「静かなるドン」、エミリー・ブロンテの「嵐が丘」などが授業中でも膝の上にあります。当時は、内外の文学作品「ハムレット」「パルムの僧院」「羅生門」「十三夜」「浮雲」などが映画化され、その原文を読み返すことともなりました。

このような乱読ではありましたが、人的・物的環境に恵まれたからこそ、読書習慣への扉が開かれたと今更思うのです。

過日のことです。小さな赤ちゃんを膝に掛けさせたお母さんが電車の正面の席に座っていました。よく見ると二人が身動きもしないでジッと見つめていたものはスマートフォンでした。酒井邦嘉先生が話された「読書が育む脳」(H26県図書館大会)のお話と重ね合わせ、これからのネット社会に対応する読書推進へのアプローチが問われる一瞬の光景でした。

《内容紹介 (もくじ)》

- ◎巻頭言…………… 1
静岡県読書推進運動協議会理事 林 のぶ
- ◎平成29年度 優良読書グループ紹介…………… 2～3
★(公社)読書推進運動協議会長表彰(全国表彰)
水ようおはなし会(菊川市)
★静岡県読書推進運動協議会長表彰(県表彰)
かみふうせん(伊豆の国市)

- 裾野市立東小学校図書サークル(裾野市)
- 大淵おはなしの会(富士市)
- えのころ(島田市)
- ゲー・チョコキ・パー (牧之原市)
- 森町学校図書館ボランティアの会(森町)
- ◎静岡県図書館大会・大人の読書活動分科会報告… 3
- ◎静岡県読み聞かせネットワーク全体講演会報告… 4
- ◎静岡県読書推進運動協議会 推薦図書…………… 4

平成29年度 優良読書グループ紹介

(公社)読書推進運動協議会長表彰(全国表彰)

【水ようおはなし会(菊川市)】

菊川市立図書館の開館を機に発足し、毎週水曜日3時からの「おはなし会」を軸に活動しています。今年で31年目になります。

「おはなし会」での読み手の声や子どもたちの声に、図書館利用者の方々をはじめ、市民の皆様の温かいまなざしを感じ、続けることができました。

会員も30代から70代までと幅広く、増減はあるものの絶えず10人程度は維持しています。読み聞かせに参加していた子どもが母親となり、そして会員になりと、2世代に渡ってきたことに幸せを実感しています。

活動は図書館にとどまらず、児童館、こども園、高齢者施設等に出向き「出張おはなしかい」を実施、また手作り人形劇の公演や「絵本の勉強会」「手作り絵本講座」の企画運営等活動の場を広げて来ました。

その他に、本年度で27回目となり、毎年400人から500人の親子の参加がある市立図書館主催の「親子読書のつどい・おはなしステーション」に当初から参加しています。さらに平成28年度からは、日ごろ仕事で参加できない親子を対象に月2回の「日ようおはなし会」がスタートしました。そして、開館30周年を機に子どものために休館日を開放する事業「子ども図書館」(子ども読書推進事業)にも参画しています。図書館との連携も密に活動できますことも、励みになっております。

今後も「絵本を通して楽しく子育て、絵本の楽しさを子どもたちに！」を忘れずに、図書館、児童館、地域の家庭文庫と連携し、地域コミュニティへの情報発信に努める等、楽しく進めてまいります。

(代表 三浦 康子)



静岡県読書推進運動協議会長表彰(県表彰)

【かみふうせん(伊豆の国市)】

「かみふうせん」は、子どもたちが読み聞かせを通じて、本を好きになってほしいとの願いから有志を募って、葦山図書館を拠点とするボランティアグループとして平成13年4月に誕生しました。以来、月2回のおはなし会並びに季節感満載の特別なおたのしみ会を行っています。

8人という小規模なグループではありますが、これまでどおり手作り感を大切にしながらも、今後は絵本や紙芝居の読み聞かせだけに留まることなく、伊豆の国市のシンボルであります世界遺産葦山反射炉や郷土の英雄江川太郎左衛門英龍についての見聞を深めて、故郷の昔話として子どもたちに伝えていこうとしている読書グループです。

(代表 土屋 洋子)



【裾野市立東小学校図書サークル(裾野市)】

私たちの図書サークルは、ある一人の保護者の「たくさんある本と児童たちの橋渡しをしたい。本との出会いは、児童たちの心にか何か暖かなものを残してくれるに違いない。」という思いから始まりました。

平成11年11月の第1回打ち合わせから今日まで約18年間の活動となりました。現在は、「読み聞かせ」「図書整備」の二つの活動をしています。メンバーは、児童の保護者のみならず、卒業生の保護者、地域の方も含め総勢48名です。

私たちは、子どもたちの笑顔、驚き、いろいろな表情を見ることができ、楽しく活動しています。これからも児童たちに喜んでもらえるように続けていきたいと思っています。

(代表 梅岡 理子・米田 亜紀子)



【大淵おはなしの会(富士市)】

私たち「大淵おはなしの会」は、富士山のふもと、富士市最北の大淵地区で読み聞かせをしています。会員は、新人から経験20年のベテランまで11名で和気あいあいと楽しく活動しています。

地元の小学校や中学校での週に一度の朝の読み聞かせとまちづくりセンターでの未就園児の読み聞かせが主な活動です。どちらも目をきらきらさせてお話を聞いてくれる姿に、日々感激し活動の糧になっています。

月に一度の勉強会では、読み方や本の検討など活発な意見交換をしています。

節目の20年という年に素晴らしい賞をいただき、会員一同歓喜し、光栄に思っています。

(代表 岩間 実香)



【えのころ(島田市)】

わたしたち「えのころ」は平成16年4月より地域の読み聞かせボランティアグループとして発足し、現在18名で子育てや仕事の合間を縫って地域の行事に参加しながら読書活動をしています。

近年、お話会の参加者のほとんどは、0歳児を連れて育児休業中のお母さんです。そこで、先ず、お母さんたちに楽しんでもらえるようなお話会のプログラムを考えたり、親子、参加者同士のスキンシップが図れるよう、わらべうた遊びを取り入れたりしています。そして、お母さん自身がお話会を楽しみながら絵本やお話に興味を持ち、それを幼い子に手渡すきっかけになれば良いと思っています。

今後もボランティア自身の資質向上に努め楽しみながら地域に密着した活動をしていきたいと思ひます。

(代表 谷坂 宣江)



【グー・チョコキ・パー (牧之原市)】

「グー・チョコキ・パー」は平成2年に結成し、現在8人で活動しています。「子どもたちに本と郷土を好きになってもらうこと」を一番の目的とし、おはなし会の中では、必ず①市立図書館に所蔵のある絵本を使用すること、②昔話や民話を入れることを心掛けています。地域の民話については、おはなしを元に自分たちの手で紙芝居やパネルシアターを作成し、子どもたちに披露しています。これらの作品は、市内で活動する他団体へも貸し出しを行い、修理をしながら大切に使用しています。他のボランティア団体や市立図書館と連携しながら、できるだけ多くの子どもたちの手にお話が届くよう、柔軟な考えのもと活動を広げています。

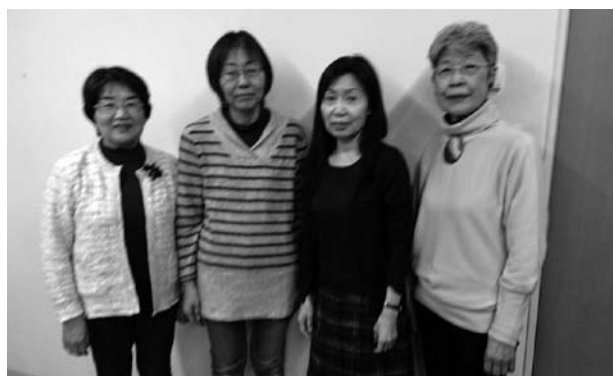
(代表 今村 郁子)



【森町学校図書館ボランティアの会(森町)】

私たちは、平成14年から活動しています。学校でのボランティアということで、心構え・選書・図書の修理など、いろいろ学ぶことから始めました。町内の学校からの要請により、現在は、中学校の読み聞かせが主な活動となりました。朝の貴重な時間に、しかも10分間に何をどのように読むか(伝えるか)悩むところですが、多様な個性の会員が当番を組み、活動することで、バランスが保たれていると思います。会員の日々の暮らしの中で、紹介したい本、感動した話、新聞各紙のコラムなども活動の参考にしています。私たちの活動が、生徒の皆さんが「読むこと」に親しむきっかけになればと思います。

(代表 相羽 由美子)



静岡県図書館大会・大人の読書活動分科会報告

平成29年11月6日(月)にグランシップにて、第25回静岡県図書館大会が開催されました。大人の読書活動を推進する第3分科会では、「歴史を楽しむための読書案内～『直虎』に見る史実とドラマの違い～」と題し、静岡大学名誉教授で文学博士の小和田哲男先生に御講演いただきました。2017年NHK大河ドラマ「おんな城主 直虎」を題材にしなが、御自身の読書体験や時代考証の難しさ、研究者と脚本家の違いなど幅広い視点で、読書の奥深さを御指摘くださいました。

小学生時代に偉人伝を読み、特に戦国時代に興味を持ちました。読書体験とは、人の一生を左右するほどの大きな体験です。

時代考証は当時の状況を踏まえなければなりません。例えば、年収2,000万円の武将ならば名馬100万円を購入できますが、それより数年前の年収400万円なら難しい、として山内一豊の名馬購入話を考証します。

さらに、ドラマ制作では研究者と脚本家によって描き方が変わってきます。直政の父、井伊直満の謀反の

真相は、通説と異なり小田原北条家と手を結んだという史料があり、脚本の訂正をお願いしました。他方、史料がない場合、小説家は自由に書

けますが、研究者は書けません。加えてドラマの視聴者には詳しい方がいて、誤りの指摘をいただきます。失敗に気が付きレベルアップできる「嬉しい御指摘」です。なぜなら、史料の読み方によって、立場によって歴史の楽しみが生まれるからです。

光の当てられていなかった「直虎」が後見した井伊家は譜代筆頭となり、大老を多数輩出し、江戸幕府の平和の礎となりました。光の当て方によって「見方を変えることがいかに大事であるか」を「直虎」を通して知って欲しいと願います。



静岡県読み聞かせネットワーク全体講演会報告

演 題：「文庫の窓辺から ～子どもと本あれこれ～」

講 師：渡辺鉄太氏・小宮由氏

日 時：平成29年11月26日(日)14:00～16:30

会 場：静岡県立中央図書館 講堂

参加数：110名

講師の渡辺鉄太氏は児童文学者渡辺茂男氏の御子息であり、オーストラリア・メルボルンにて児童書の創作と翻訳をなさっています。小宮由氏は児童書の編集者として多くの作品を手掛けられ、現在は絵本や幼年文学の翻訳に携わっておられます。さらに両氏ともに家庭文庫を主宰なさっています。

講演の第1部ではお二人それぞれからお話いただ

き、第2部ではクロストーク形式により文庫の様子や子どもたちの姿から感じたこと、作品の紹介などを伺いました。

翻訳も選書が最も大切であることや、生活習慣の違いを平易な言い回しで表すことなど、翻訳者ならではのお話に、参加者一同大いに感銘を受けた講演会でした。



静岡県読書推進運動協議会推薦図書

—シニア世代向け—

『姥捨て山繁盛記』

太田俊明／著(日本経済新聞出版社 2017.2)

『わたくしたちの旅のかたち
好奇心が「知恵」と「元気」を与えてくれる』
兼高かおる／著(秀和システム 2017.2)

『こころの匙加減』

100歳の精神科医が見つけた』
高橋幸枝／著(飛鳥新社 2016.9)

—ヤング世代向け—

『中学生棋士』

谷川浩司／著(KADOKAWA 2017.9)

『パパは脳研究者』

子どもを育てる脳科学』

池谷裕二／著(クレヨンハウス 2017.8)

『義足のアスリート山本篤』

鈴木祐子／著(東洋館出版社 2017.8)